



末吉小だより

横浜市立末吉小学校
学校だより

令和3年 6月号

「大切な一人」×660人＝末吉小

副校長 菅野 範子

今年も末吉小学校にツバメが帰ってきました。冬の間は主（あるじ）のいなかったツバメの巣が、気がつくと壊れていた部分もきれいに直され、春からは巣の周りや巣の中でツバメの姿をひんぱんに見かけるようになりました。夏になって家族が増え、かわいいツバメの赤ちゃんに会えるのが今から楽しみです！

主のいない、で思い出すのは1年前の学校です。昨年の4・5月は臨時休業中で静かな寂しい学校でした。しかし、今年は感染症防止策を取りながら、できる活動をいきいきと楽しむ子どもたちの姿がどの教室からも毎日見られます。また、外部機関から講師をお招きしての活動を、感染症対策をしっかりと行った上で実施できているのが、昨年とは違う点です。正しい道路の歩行や自転車の乗り方、上手なボールの投げ方・打ち方、社会の税金のしくみなど、その道のプロの方から聞くお話、実際に体を使っての実践、実物を見る感動はきっと子どもたちの心にいつまでも残り続けることでしょう。日々の授業や友達との生活の中に、はじめての経験や非日常の体験ができる機会を取り入れながら、子どもたちの興味・関心や意欲を高め、さらに充実した学校生活を送れるように、これからも工夫を続けていきます。

さて、私は朝と夕方に、子どもたちのいない校舎内を巡回していますが、その時に各クラスの廊下に掲示してある、一人ひとりの作品を楽しく見ながら回っています。6年生の教室廊下には自己紹介カードの中に「英語がわかるようになりたい」「算数をがんばって中学校で困らないようにしたい」「最高学年としてみんなをひっぱる」「低学年のお手本になる」など、一人ひとりのめあてがしっかりと書かれていました。1年生は大きな画用紙いっぱい自分の好きなものの絵をクレパスで描いていました。果物、生き物、好きな場所…どの子の作品からも「好き！」があらわれ出ている一枚一枚の絵です。きっと小学校での図工の学習に心躍る様子で取り組んだことでしょう。他の学年も詩の視写や観察カード、図工の作品などが飾られていて、それぞれの作品の表現者であるお子さんの思い、個性、がんばりがとてもよく伝わってきます。そんな「大切な一つの作品」が「660人」分集まった学校ギャラリー。それを作った「大切な一人」が「660人」集まっている末吉小学校。思っていることやがんばっていること、性格や個性はそれぞれ違うけれど、「みんなちがって みんないい！」

誰もが「大切な一人」のお子さんです。その大切なお子さん660人が安心・安全に過ごせる学校を末吉小教職員、給食調理員、学校医・薬剤師も含めた総勢72名でつくっていきます！そして、大切なお子さんのよりよい学びと成長のため、力を尽くしていきます！

